

## 7.2.2. 評価結果

### (1) 構造物の安定性

干潟的環境の整備のための構造物は、「東京湾沿岸海岸保全基本計画[千葉県区間]」に示された波浪の防護水準である 50 年再現確率相当の波浪に対して防護できる施設であるか否か判断した。

何れの案についても、護岸や漁港と同程度に台風能耐えられる構造とすることにより、構造部との安定性を確保できるものと判断する。

表 7-6 構造物の安定性の評価の比較

	評価の内容	評価結果
A 案	<ul style="list-style-type: none"> <li>■護岸や漁港と同程度に台風能耐えられる構造とする。</li> <li>■砂泥の流出を防止するため、造成箇所の両脇に突堤を設置する。</li> <li>■波浪を減衰するため、潜堤を設置する。</li> </ul>	5
A-1 案	<ul style="list-style-type: none"> <li>■護岸や漁港と同程度に台風能耐えられる構造とする。</li> <li>■陸から沖にかけて、段々畑状に造成する。</li> <li>■波浪を減衰するため、潜堤を設置する。</li> </ul>	5
B 案	<ul style="list-style-type: none"> <li>■護岸や漁港と同程度に台風能耐えられる構造とする。</li> <li>■周辺を仕切り板で囲って、造成する。</li> </ul>	5
C 案	<ul style="list-style-type: none"> <li>■護岸や漁港と同程度に台風能耐えられる構造とする。</li> <li>■離岸堤から陸に向かって干潟域を造成する。</li> </ul>	5
C-1 案	<ul style="list-style-type: none"> <li>■護岸や漁港と同程度に台風能耐えられる構造とする。</li> <li>■離岸堤から陸に向かって干潟域を造成する。</li> </ul>	5
C-2 案	<ul style="list-style-type: none"> <li>■護岸や漁港と同程度に台風能耐えられる構造とする。</li> <li>■離岸堤から陸に向かって干潟域を造成する。</li> </ul>	5
C-3 案	<ul style="list-style-type: none"> <li>■護岸や漁港と同程度に台風能耐えられる構造とする。</li> <li>■離岸堤から陸に向かって干潟域を造成する。</li> </ul>	5
C-4 案	<ul style="list-style-type: none"> <li>■護岸や漁港と同程度に台風能耐えられる構造とする。</li> <li>■離岸堤から陸に向かって干潟域を造成する。</li> </ul>	5

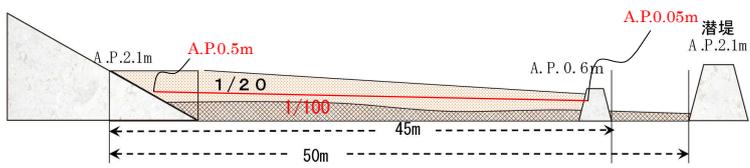
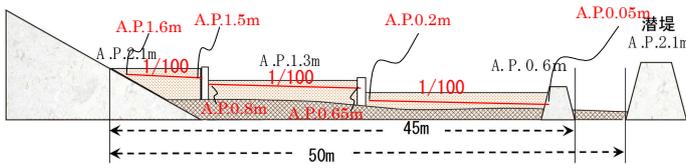
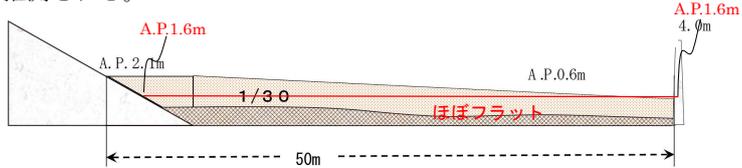
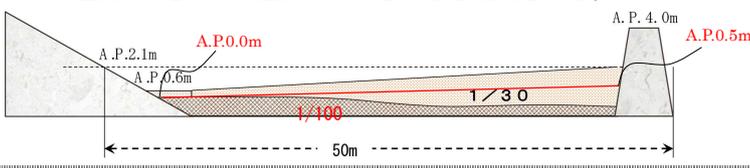
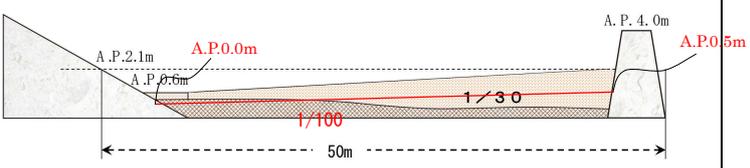
※評価結果 5；良好、4；やや良好、3；普通、2；やや不良、1；不良

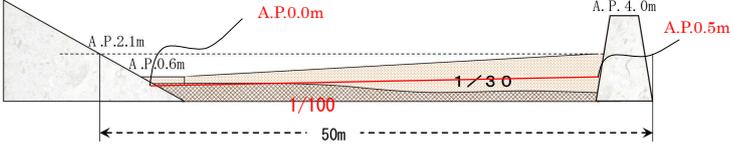
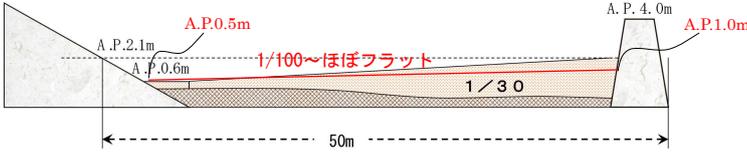
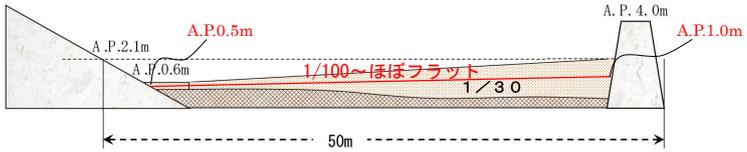
## (2) 砂泥の安定性

干潟的環境の整備に用いる砂泥は、可能な限り流出しないような対策を講ずる案や、ある程度の砂泥の流出は許容する案が存在する。砂泥の安定性の評価では、流出する砂泥の量によって行った。なお、仮に各案を整備した後に、3から5年経過した際に想定される地盤を砂付け試験の結果等から推定し、赤いラインで記載した。

この結果、矢板で砂泥を囲んでいるB案、堤防、砂止潜堤あるいは矢板で砂泥を囲んでいるC-3案及びC-4案については、砂の流出が少ないと推測される。

表 7-7 砂泥の安定性の評価の比較

	評価の内容	評価結果
A案	<ul style="list-style-type: none"> <li>■干潟的環境は満潮時には水没する。</li> <li>■砂泥が波浪により流出しやすい。</li> <li>■3～5年後にはA.P.0.05～0.5m程度、勾配1/100程度で維持されると推測される。</li> </ul> 	2
A-1案	<ul style="list-style-type: none"> <li>■干潟的環境は満潮時には水没する。</li> <li>■砂泥が波浪により流出しやすいが、干潟部の2カ所に仕切りを設置しているため、A案より通常時の波浪による浸食を受けにくい構造であり、砂が流出する速度は遅くなると想定される。</li> <li>■A案より砂泥が維持されると想定される。</li> <li>■3～5年後には上段でA.P.1.5～1.6m、中段でA.P.0.65～0.8m、下段でA.P.0.05～0.2m程度になると推測される。</li> </ul> 	3
B案	<ul style="list-style-type: none"> <li>■満潮時には水没するものの、仕切り板で囲まれているため、直接波浪による浸食を受けにくい。</li> <li>■水交換のための工夫を行うことから、若干の砂の流出が想定される。高潮帯部分において0.5m程度低下し矢板内側の低潮帯部分に留まると想定される。概ね整備時の砂量は維持し、フラットな状態で維持されると推測される。</li> </ul> 	5
C案	<ul style="list-style-type: none"> <li>■干潟的環境は満潮時には水没する。</li> <li>■砂泥は、波浪による浸食を受けにくい干満による砂泥の流出が想定される</li> <li>■3～5年後にはA.P.0～0.5m程度、勾配1/100程度で維持されると推測される。</li> </ul> 	3
C-1案	<ul style="list-style-type: none"> <li>■干潟的環境は満潮時には水没する。</li> <li>■砂泥は、波浪による浸食を受けにくい干満による砂泥の流出が想定される</li> <li>■C案と比較して砂泥の流出は緩和されるものの、3～5年後にはA.P.0～0.5m程度、勾配1/100程度で維持されると推測される。</li> </ul> 	3～4

	評価の内容	評価結果
C-2 案	<p>■干潟的環境は満潮時には水没する。</p> <p>■砂泥は、波浪による浸食を受けにくい、干満により流出が想定される</p> <p>■両側に砂止潜堤を設置するものの、堤防との間に隙間が存在することにより、水の流れが集中し、局所的に深掘れすると想定される。</p> <p>■C案と比較して砂泥の流出は緩和されるものの、3～5年後にはA.P. 0～0.5m程度、勾配1/100程度で維持されると推測される。</p> 	3～4
C-3 案	<p>■干潟的環境は満潮時には水没する。</p> <p>■砂泥は、波浪による浸食を受けにくい、干満により流出が想定される</p> <p>■C-2案と比較すると、両側に砂止潜堤を設置するため砂泥の流出は緩和される。水交換のための工夫を行うことから、若干の砂の流出はあると想定されるものの概ね整備時の砂量は維持し、比較的安定的な勾配1/100程度で維持されると推測される。</p> 	4
C-4 案	<p>■干潟的環境は満潮時には水没する。</p> <p>■砂泥は、波浪による浸食を受けにくい、干満による砂泥の流出が想定される</p> <p>■C-2案と比較すると、片側に堤防、片側に矢板を設置するため砂泥の流出は緩和される。水交換のための工夫を行うことから、若干の砂の流出はあると想定されるものの概ね整備時の砂泥量は維持し、比較的安定的な勾配1/100程度で維持されると推測される。</p> 	4～5

※評価結果 5；良好、4；やや良好、3；普通、2；やや不良、1；不良